

冬道運転ガイド 吹雪ドライブのコツ

知って安心、安全ドライブ



北の道ナビ

ドライブに役立つ情報が満載!



二次元コードで携帯サイトに簡単アクセス!

<http://n-rd.jp/>

(PC・携帯3社対応)



CONTENTS 1

冬道運転テクニック

CONTENTS 2

冬道運転の心得

CONTENTS 3

視程障害時の運転
に役立つ基礎知識

このパンフレットに掲載されている情報は、インターネットサイト「北の道ナビ」(PC版)でも見ることが出来ます(日本語のみ)。安全で快適なドライブにご活用下さい。



URL

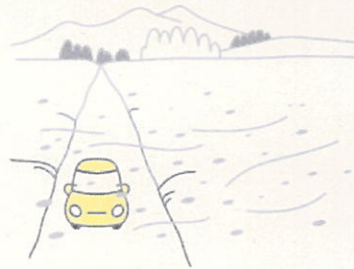
<http://northern-road.jp/nav/info/drive.htm>



独立行政法人土木研究所
寒地土木研究所
URL <http://www.ceri.go.jp/>

●こんなところで視程障害は発生しやすい

周囲の開けた平坦な地形の道路



吹雪をさえぎる樹木や建物が少ない、周囲が開けた平坦地では道路に吹き込んでくる飛雪が多くなりやすいので、視程障害や吹きだまりが発生しやすくなります。特に、畑や水田、牧草場が広がっている平地では、冬には広い雪原になるので、風の強いときには注意しましょう。

峠区間や急峻地形の道路

峠区間や急峻地形の道路では、気象の変化も著しく、短い区間でも視程が急変することがあるので、走行する時には注意が必要です。

切土区間や盛土との境の区間

深い切土区間では、切土の上の平地で発生した飛雪が道路上に吹き込むことによって、吹きだまりや視程障害を引き起こされることがあります。また、切土と盛土との境の区間では、盛土から切土に吹き込む風によって視程障害を招くこともあります。



視程障害時の運転に役立つ 基礎知識

3

視程及び 視程障害とは?

●視程について

空を背景に黒っぽい対象物(視角0.5~5°)が、目視で視認できる最大の距離のことをいいます。

●視程障害について

空気中に浮遊物があると、それによって光が散乱・吸収・反射されて減衰するため、私たちの目に届く光の量が少なくなり、周りの景色が見えづらくなることを視程障害といいます。降雪や吹雪によって雪が舞っている場合も霧同様に視界が悪くなりますが、霧のような小さな水滴とは異なり雪片は目に見えるほど大きいので、その視程障害も少し異なります。

●こんなとき視程障害は起きやすい

気温が低く風が強いとき

風速 8m/s 以上



気温が低く、風速が 8m/s 以上になると、雪面の雪が目の高さ以上に吹き上げられるようになり、これを高い地吹雪と呼びます。高い地吹雪では、乗用車の目線の高さ 1.2m を越えて雪が舞うようになるので、ドライバーの視界を奪い、厳しい視程障害を及ぼす場合があります。

道路の雪堤が高いとき

目線の高さ 1.2m



路側の雪山(雪堤)が高いと、そこから吹き出す飛雪がドライバーの目線に達するので、視程障害となります。降雪量が多く路側の雪山(雪堤)が高くなっているときには、風があまり強くなくても視界不良に注意が必要です。

大型車からの雪煙に注意



大型車が巻き上げる雪煙によって視界が一瞬にして奪われることがあります。大型車の追い越しによる雪煙では、一瞬のうちにホワイトアウトの状態となり、不意をつかれることもあります。道路上に新雪が積もっている場合には、対向車や追い越し時の雪煙に注意が必要です。

●ホワイトアウトに注意



物が周囲と区別して識別できるためには、コントラストに差があることが重要。周囲が白一色となる冬道では、道路と景色の区別がつけにくくなるため、実際の視程よりかなり悪く感じることがあります。時にはホワイトアウトと呼ばれる場合には、白い雪のほか何も見えない状態になることがあり注意が必要です。